

事務事業評価シート

評価対象年度 平成 25 年度

【事務事業の基本的事項】

事務事業名	田沢湖図書館図書資料購入費							
担当課係名	田沢湖図書館	課	係	作成者	藤原 眞栄			
総合計画での位置づけ	施策の大綱	明日を担う人材を育む教育文化のまち			総合計画のページ			
	基本計画	生涯学習の推進と社会教育施設の整備						
	主要施策	社会教育施設の充実			96			
予算費目	一般	会計	10 款	教育費	5 項	社会教育費	3 目	図書館費
事業期間	平成	年度	～	平成	年度	新規/継続の区分		継続
性質区分	<input checked="" type="checkbox"/> 市民サービス <input type="checkbox"/> 公共事業 <input type="checkbox"/> 施設維持管理 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 内部管理							
根拠法令等	図書館法、図書館法施行令、図書館法施行規則							
事務区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務							
運営方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 直営(一部民間委託) <input type="checkbox"/> 民間委託(全部) <input type="checkbox"/> 補助							

【事務事業の実施内容】

事業の対象 (誰のため・何を)	市民(市外者含む)
事業の目的・意図 (どういう状態にしたいのか)	利用者のニーズに合わせた環境づくり(配架等)、他館とのネットワークを活用して地域に密着した図書館を目指す。
事業の内容 (どのような業務、活動を行うのか)	文化・教養・調査・娯楽等に役立つ資料等の収集及び利用者の日常生活に役立つ図書収集に努める。

【事務事業の推移】

		項目	単位	24年度実績	25年度実績	
効果	活動指標	購入冊数	目標			
			実績	冊	2,119	1,867
			達成度			
	成果指標	貸出冊数	目標	項目		
			実績	項目	17,973	16,001
			達成度			
投下コスト	項目		総事業費	24年度決算額(千円)	25年度決算額(千円)	
	事業費(人件費を除く)(A)			2,633	2,653	
	人件費(B)		—	24,858	24,858	
	職員数		—	3.00	3.00	
	職員平均人件費		—	8,479	8,286	
	(A)+(B) 投下コスト		—	27,491	27,511	
	財源内訳	国庫支出金				
		県支出金				
		地方債				
		その他				
一般財源			27,491	27,511		
単位コスト	活動指標1単位当たりコスト(円)		—	12,974	14,735	
	市民1人当たりのコスト(円)		—	924	936	

【事務事業の今までの成果】

利用者からのリクエストに極力応える形で可能な限り購入し、利用者サービスに努めている。一部の蔵書データをホームページにアップし、インターネットからの検索が可能となった。

【事務事業を取巻く環境】

国・県・他自治体の動向	秋田県立図書館は利用率の向上を図るため、市町村立図書館を年2回程度訪問し、ヒヤリングを実施した上で可能な支援を行っている。
事業に対する市民の意見 (事業に対する期待、要望、苦情等)	・会館時間の延長はできないか。・学習資料館と田沢湖図書館で休館日をずらせないか。・朗読コンサートやお話し会の階数を増やせないか。

【一次評価】

判定	事業の方向性	判定に至った理由
A	A 現状のまま継続（実施）	田沢湖地区には書店がなくなっている。メディアの多様化は進んでいるものの、住民の文化的要求に答えるため現状維持が望ましいと考えた。
	B 1 見直しの上で継続（拡大）	
	B 2 見直しの上で継続（手段改善等）	
	B 3 見直しの上で継続（縮小）	
	C 1 大幅な見直しの上で継続（拡大）	
	C 2 大幅な見直しの上で継続（手段改善等）	
	C 3 大幅な見直しの上で継続（縮小）	
	D 休止・廃止（統合を含む）を検討する事業	
	E 終了（完成及び目的を達成し終了した事業）	

※一次評価の判定がB～Dのときは、下記に必ず記入すること。

【具体的な今後の取組内容（改善の方向性、対象、意図、手段等について記載すること。）

--

【二次評価】

判定	判定に至った理由
A	ソーシャルネットワークの時代とはいえ、まだまだ本の行間を読む、愛読者も多く時代に合った書物、映像等を住民に提供する必要がある。

